

レビューアイテム (研究タイプ)

介入研究

1. 清川真凜、高田駿、上村朋美、加藤宗規、山 裕司.Pusher 現象を呈する重度片麻痺患者に対する座位保持練習. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020; 1:41-43. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_4
2. 速澤有沙、鈴木誠、千葉直子. 行動リハビリテーションによる逆方向連鎖法を用いた起き上がり動作練習. 健康と医療. 2013; 23: 31-37. https://doi.org/10.60218/kodoreha.0.1_20
3. 川口利晃、上村朋美. 加藤宗規、山 裕司. マーンを用いた併用前傾運動と起立動作に及ぼす影響. Pusher 現象を呈する重度片麻痺患者に対する検討. 行動リハビリテーション 2020; 9: 15-17. https://doi.org/10.60218/kodoreha.0.1_15
4. 川口利晃・上村朋美・加藤宗規・山 裕司. 行動療法を採用したコミュニケーションニクニケーションによる片麻痺患者に対する介入介入. フォーマンスが条件性變動を示した症例. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023; 4:31-35. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.0.4_31
5. 市川祐歩、杉元歩美、山 裕司. 遠延症の言語障害を伴った片麻痺患者に対する起き上がり動作練習. 行動リハビリテーション 2017; 6:13-17. https://doi.org/10.60218/kodoreha.6.0_13
6. 市川祐歩、山 裕司. 行動リハビリテーションによる脳梗塞患者に対する改善的難易度設定を用いた移動動作練習. 行動リハビリテーション 2025; 13:13-17.
7. 井手眞実. 片麻痺症候群に対する介入と対象として. 行動リハビリテーション 2015; 4:32-37. https://doi.org/10.60218/kodoreha.4.0_32
8. 一本柳千香、喜田駿、加藤宗規、山 裕司. 認知症を併合した進行性核上性麻痺患者に対する起き上がり動作練習. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020; 1:45-48. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_45
9. 一本柳千香、荒川沙織、喜田駿、山 裕司. 次回脳梗塞障害を伴う片麻痺患者に対するトイレ下衣操作練習 - 応用行動分析学の介入効果の検討. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2021; 2:13-18. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.2.0_13
10. 金子涼子. 佐藤慶志、辛秀雄. 週間対比評定による上衣の着脱手術困難であった重複片麻痺患者に対する介入. 行動リハビリテーション 2019; 8:13-15. https://doi.org/10.60218/kodoreha.8.0_13
11. 川口沙織. 加藤宗規・山 裕司. 逆方向連鎖化の技法を用いた食事動作練習 - 重度失認症を併合した片麻痺患者に対する介入. 行動リハビリテーション 2020; 4:12-14. https://doi.org/10.60218/kodoreha.4.0_21
12. 川口沙織. 丸山尚久. 久保久美. 加藤宗規. 急性期 Pusher 症候に対する段階的難易度調整を用いた立位運動練習がトイレ動作介助量に及ぼす影響. 行動リハビリテーション 2018; 7:2-5. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_2
13. 川口沙織. 加藤宗規. 山 裕司. 反逆方向連鎖化の技法を用いた食事動作練習 - 重度失認症を併合した片麻痺患者に対する介入. 行動リハビリテーション 2020; 9:12-14. https://doi.org/10.60218/kodoreha.9.0_12
14. 佐野和洋. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2019; 8:18-20. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_18
15. 小島聰智、鈴木誠. 日常生活動作全般の介入を要した認知症患者に対する動作練習. 行動リハビリテーション 2012; 1:23-29. https://doi.org/10.60218/kodoreha.1.0_23
16. 久瀬豊太、加藤宗規. 山 裕司. 上村朋美. 成毛修平. 辛秀雄. 重度 Pusher 症候を呈した片麻痺患者に対する介入練習 - 高次脳梗塞下肢の長下肢装具を装着の効果. 行動リハビリテーション 2024; 12:4-8. https://doi.org/10.60218/kodoreha.12.0_6
17. 猪切博美. 大森圭吾. 訓習型介入と行動リハビリテーション 2018; 7:6-13. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_6
18. 國學院大. 黒柴嘉英. 田代大貴. 重慶本亜希. 田畠沙耶香. 原田農. 柴崎真弥. 植木謙介. 山口公則. 加藤宗規. 重慶本亜希. 田代大貴. 田畠沙耶香. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023; 4:11-18. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.4.0_11
19. 佐野和洋. 田中千恵. 伊藤理子. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2014; 10:20-24. https://doi.org/10.60218/kodoreha.10.0_20
20. 松井剛. 加藤宗規. 山 裕司. 上村朋美. 成毛修平. 辛秀雄. 重度 Pusher 症候に対する介入と歩行訓練. 行動リハビリテーション 2013; 4:18-24. https://doi.org/10.60218/kodoreha.2.0_18
21. 松井剛. 加藤宗規. 山 裕司. 行動リハビリテーション 2015; 4:2-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.4.0_2
22. 松井剛. 加藤宗規. ハリマリハビリテーションを経ての認知症患者に対する介入と自立化. 行動リハビリテーション 2017; 6:23-27. https://doi.org/10.60218/kodoreha.6.0_23
23. 南貴裕. 大森圭吾. 小野雅之. 佐藤貴輔. 重慶本亜希. 田代大貴. 田畠沙耶香. 高知リハビリテーションに対する移乗動作練習. 段階的難易度調整を併用した介入. 行動リハビリテーション 2018; 7:21-25. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_21
24. 宮下華奈. 加藤宗規. 山 裕司. 疾患動作中の Pusher 現象に対する部分練習の効果 - 重症片麻痺患者に対する介入. 行動リハビリテーション 2018; 7:14-17. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_14
25. 宮 岩 美子. 山 裕司. 梶川裕史. 加藤宗規. 山 裕司. 平賀貢司. 福島忠勝. 藤川伸彦. 寺川利也. 上方への牽引が閉眼立位平衡感覚に及ぼす影響. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020; 1:59-61. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_59
26. 宮 岩 美子. 山 裕司. 平賀貢司. 福島忠勝. 寺川利也. 佐藤英一. 片麻痺側脚の角度の変化がしゃがみ込み動作時の垂直平衡感覚に及ぼす影響. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2022; 3:33-36. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.3.0_33
27. 最上谷拓馬. 大森圭吾. 佐藤英一. 佐藤志哉. 清水弘之. 四枝不全麻痺患者の起き上がり動作に対する応用動作分析学の介入. 行動リハビリテーション 2014; 3:79-83. https://doi.org/10.60218/kodoreha.3.0_79
28. 最上谷拓馬. 大森圭吾. 佐藤英一. 佐藤志哉. 大野千葉. 一人対象を視野に入れた運動表示による発現回数を増加させる行動リハビリテーション 2016; 5:31-35. https://doi.org/10.60218/kodoreha.5.0_31
29. 林 球光. 小林雅之. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020; 8:18-22. https://doi.org/10.60218/kodoreha.8.0_18
30. 村上大誠. 村上大誠. 佐藤英一. 佐藤志哉. 行動リハビリテーションによる軽度片麻痺患者の座位保持困難を緩和する腰椎牽引と歩行練習. Pusher 現象に対する介入. 行動リハビリテーション 2020; 11:18-22. https://doi.org/10.60218/kodoreha.11.0_18
31. 中島秀太. 加藤宗規. 辛秀雄. 重度片麻痺と全脚不全を呈した症例に対するプロトコルフエイティング法と時間選択法併用した介入. 行動リハビリテーション 2014; 3:62-66. https://doi.org/10.60218/kodoreha.3.0_62
32. 中島秀太. 加藤宗規. 大山耕一. 佐藤英一. 佐藤志哉. 松井豊太郎. 辛秀雄. 半側空回旋を併合した重度片麻痺患者に対する段階的難易度調整と歩行訓練の効果. 行動リハビリテーション 2016; 5:11-17. https://doi.org/10.60218/kodoreha.5.0_11
33. 中島秀太. 加藤宗規. 大山耕一. 佐藤英一. 佐藤志哉. 行動リハビリテーション 2017; 1:23-28. https://doi.org/10.60218/kodoreha.1.0_23
34. 中田衛衡. 岩田一馬. 山 裕司. 行動リハビリテーション 2017; 6:18-23. https://doi.org/10.60218/kodoreha.6.0_28
35. 中田衛衡. 岩田一馬. 山 裕司. 行動リハビリテーション 2018; 7:1-6. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_1
36. 中田衛衡. 岩田一馬. 山 裕司. 行動リハビリテーション 2019; 7:1-2. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_2
37. 中田衛衡. 岩田一馬. 山 裕司. 行動リハビリテーション 2020; 7:1-5. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_5
38. 中田衛衡. 岩田一馬. 山 裕司. 行動リハビリテーション 2021; 7:1-5. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_5
39. 中田衛衡. 岩田一馬. 山 裕司. 行動リハビリテーション 2022; 7:1-5. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_5
40. 中田衛衡. 岩田一馬. 山 裕司. 行動リハビリテーション 2023; 7:1-5. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_5
41. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023; 4:37-40. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.4.0_37
42. 中山智康. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020; 1:9-15. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_9
43. 小諸信彦. 山 裕司. 岩坂正樹. 吉田智貴. 田邊正義. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020; 1:2-10. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.1.0_2
44. 小諸信彦. 山 裕司. 岩坂正樹. 吉田智貴. 田邊正義. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2021; 2:1-10. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.2.0_1
45. 小諸信彦. 山 裕司. 岩坂正樹. 吉田智貴. 田邊正義. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2022; 3:1-10. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.3.0_1
46. 小諸信彦. 山 裕司. 岩坂正樹. 吉田智貴. 田邊正義. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023; 4:1-10. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.4.0_1
47. 小諸信彦. 山 裕司. 岩坂正樹. 吉田智貴. 田邊正義. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2024; 5:1-10. https://doi.org/10.60218/kodoreha.5.0_1
48. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2020; 1:2-10. https://doi.org/10.60218/kodoreha.1.0_2
49. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2021; 2:1-5. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.2.0_1
50. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2022; 3:1-7. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.3.0_1
51. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2023; 4:1-7. https://doi.org/10.15028/kochirehadai.4.0_1
52. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2024; 5:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.5.0_1
53. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2025; 6:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.6.0_1
54. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2026; 7:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.7.0_1
55. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2027; 8:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.8.0_1
56. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2028; 9:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.9.0_1
57. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2029; 10:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.10.0_1
58. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2030; 11:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.11.0_1
59. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2031; 12:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.12.0_1
60. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2032; 13:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.13.0_1
61. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2033; 14:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.14.0_1
62. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2034; 15:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.15.0_1
63. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2035; 16:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.16.0_1
64. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2036; 17:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.17.0_1
65. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2037; 18:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.18.0_1
66. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2038; 19:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.19.0_1
67. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2039; 20:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.20.0_1
68. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2040; 21:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.21.0_1
69. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2041; 22:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.22.0_1
70. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2042; 23:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.23.0_1
71. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2043; 24:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.24.0_1
72. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2044; 25:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.25.0_1
73. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2045; 26:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.26.0_1
74. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2046; 27:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.27.0_1
75. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2047; 28:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.28.0_1
76. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2048; 29:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.29.0_1
77. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2049; 30:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.30.0_1
78. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2050; 31:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.31.0_1
79. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2051; 32:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.32.0_1
80. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2052; 33:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.33.0_1
81. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2053; 34:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.34.0_1
82. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2054; 35:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.35.0_1
83. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2055; 36:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.36.0_1
84. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2056; 37:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.37.0_1
85. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2057; 38:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.38.0_1
86. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2058; 39:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.39.0_1
87. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2059; 40:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.40.0_1
88. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2060; 41:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.41.0_1
89. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2061; 42:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.42.0_1
90. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2062; 43:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.43.0_1
91. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2063; 44:1-7. https://doi.org/10.60218/kodoreha.44.0_1
92. 仁科和也. 佐藤英一. 朝日亮介. 高知リハビリテーション専門職大学紀要 2064; 45:1-7. [https://doi.org/10.60218/k](https://doi.org/10.60218/kodoreha.45.0_1)